



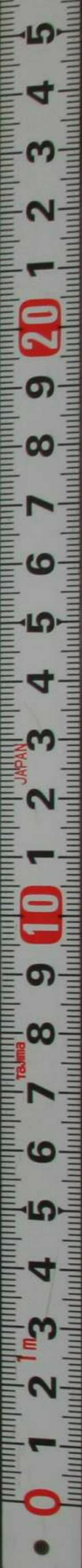
里見八犬傳

拾五編

卷三十四下



709  
84



遠へ12  
 709  
 84



明治二十六年  
 十月九日  
 購

三十四下

第百廿回 龍田の三士生拘を獻る  
 扇谷の間謀假使を導く

登時東峰萌三小湊日。鱒船貝六郎若軍令既訖る不及。則  
 義成主小見參して公を。臣等老館の御意を。俱參上り。その  
 故の臣等總角の時。今に至るまで。老館の仕まつれば。一と。戰場の  
 御伴を仕まつ。然るに。春夏の間。素藤と御征伐の折も。人人の功名を。柄を  
 今。美まき思ひ。今番の御封内。一郡一城の逆徒。あら。敵の鎌倉の  
 兩管領。並近國の諸侯也。雄兵十萬水陸より。攻伐す。欲と云風  
 聲既喋々。臣等其職。あ。この時。備共侶。御陣。不。従ひ。は。ら  
 去。孰の年を。俟ん。と。思。望の。已。ら。坐。官。勤。の。折。々。の。受。を。情  
 語。は。ひ。人。老。館。不。告。ま。り。飲。昨。日。猛。可。臣。等。と。召。て。御。説。あり。若。們。を。

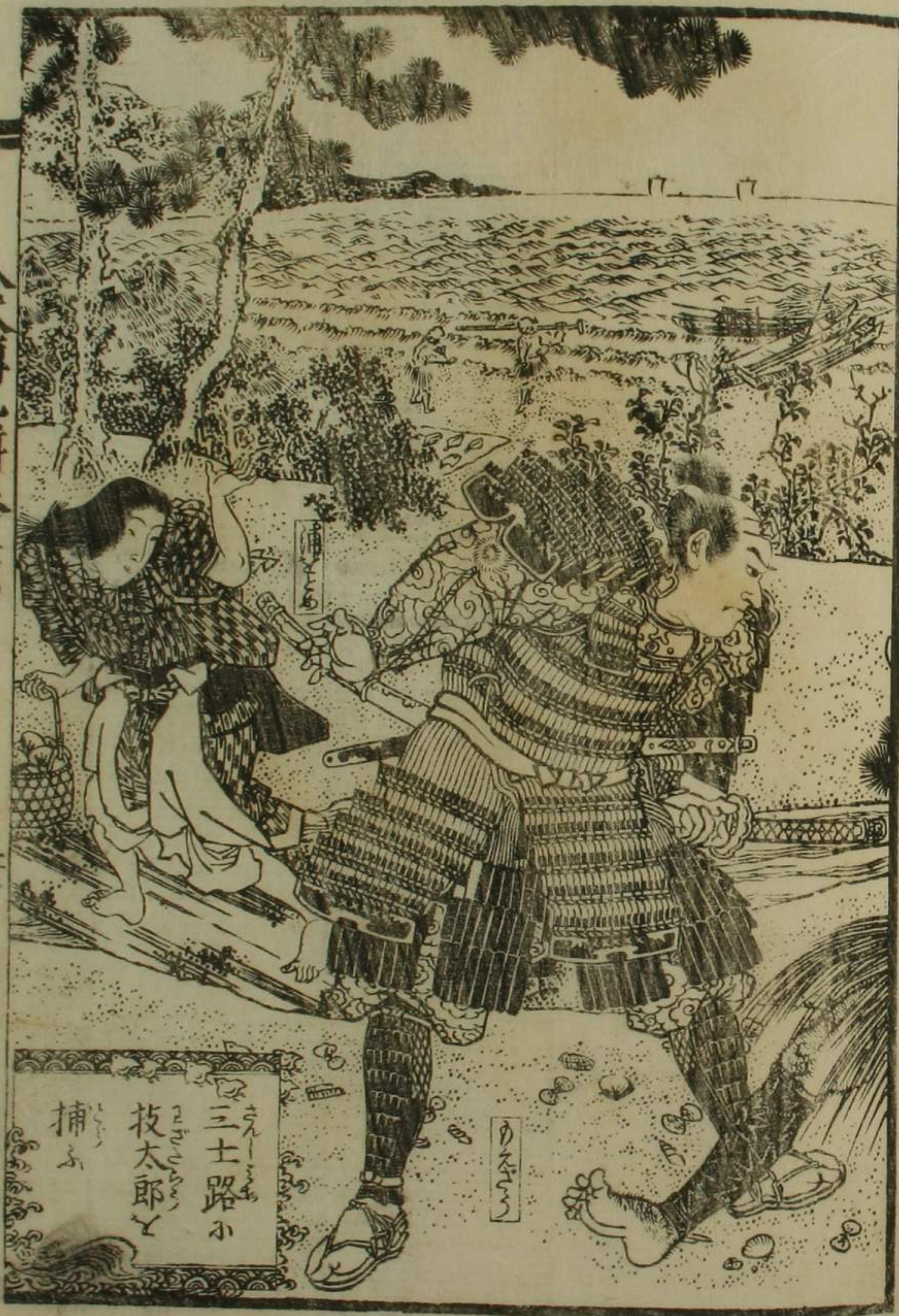
八天轉丸輯卷三十四

六一

八天轉丸輯

血氣剛に壯校る我は仕る故を也。今回の役は従ふればさる本意なく  
思ふらぬ。その故は若們二名を軍中の使として。明日稲村へ遣え。開戦の間俱  
本陣に任じて。大士を敵と違ふ。武勇の揮を見習ひ。必後学するに及ばし。  
若們權且ある在りても。外に近臣なるは。且致仕の老當黨。今日四個まで  
来なければ。我を尉する陪堂より。その美を館に稟せしむ。従役の暇のひは。臣等  
軟ひのさうもひ。御恩を拜し。言美まらる。退も。昨宵共侶の猛可。従軍に  
準備し。雑兵僅に十五名を従へ。今朝の早天。瀧田より。大城を立出。連  
日。その路あり。料を一個の應見を。搦捕りひひく。その美は。姑且時を程して。  
方僅。参上仕りぬ。と言同様。お叱り上げ。義成王。含笑。現若們の情願を。  
武士する者の真面目を。其心樹さる。あらん。丹を猜し。ひひる。老館の御慈  
愛のく。人を使る。賢慮。定は。易く。好造化。を。あられ。若們

今より我陣に居る事。あらん。度毎。瀧田。告なる。便り。今日より。俱  
在陣。若們が。来る。路。搦捕り。と。應見。原。是。甚。磨。る。者  
也。と。問。を。萌。云。答。を。以。ち。然。以。應。不。濱。産。を。過。り。折。前。路。一。個。の。漢  
子。の。其。打。扮。の。深。深。の。袴。の。前。袖。を。鶉。衣。の。腰。蓑。を。た。地。方。の。捕。人。の。像  
く。見。れ。る。人。と。も。の。音。聲。の。紛。々。も。あ。り。け。る。武。藏。訛。で。い。へ。臣。等。是。を。誑  
す。應。見。等。と。喚。れ。他。大。く。駭。怕。を。走。り。百。步。許。逃。去。り。け。る。と。透。さ。り  
追。蒐。け。り。被。捉。へ。有。を。の。む。を。緊。急。を。結。紐。り。敵。は。素。生。と。来。歴。を。主。員  
問。け。る。應。見。苦。痛。の。堪。え。り。け。る。招。う。ま。ら。し。知。り。ぬ。其。奴。の。大。石。見。守。憲。重  
問。謀。見。ぬ。憲。重。が。家。臣。仁。田。山。晋。五。弟。晋。六。武。佐。が。從。母。弟。の。朝。時  
技。大。郎。と。喚。做。を。者。と。い。へ。躬。く。那。身。の。内。を。撈。り。檢。ま。る。果。を。懐。み。あ。る。  
扇。谷。定。正。主。の。機。文。數。通。あり。丹。を。の。く。の。御。國。の。民。每。の。薦。め。致。せ。し。内



八代将軍家三郎

九三

三士路小  
技太郎  
捕ふ



八代将軍家三郎

三士路小

痴さきまぐ欲りし身。伎倆分明の御陣へ牽せられたと報る。貝六郎と  
 身を起して外面の立出く。伴の雜兵の索せ合せ。伴の朝時技太郎と牽  
 立く。かの夜。義成主小見せまわられた。目の檄文數通を合せ。則御前  
 呈圖を拜を見も。多々も。諸士の皆愕然と。一ひらち驚愕。又一ひら  
 介とく。愉快とを思ひける。當下義成主の這龍田の三士の様を答言させ  
 隨即杉倉直元其檄文を用せ。讀むと徐く所。其書不道り。  
 諸侯上尊帝王時朝。柳營下求賢才善愛庶民。稟制於  
 連帥而結交于隣國。則可以為有道君子也。言有源義  
 成者其父義實嘉吉。叛逆餘子也。當時免命而流寓安  
 房。又乘風雲之會。伐神餘逆臣。定包殺之。橫領其郡縣  
 又隨欺殺滿呂安西。遂併得四郡矣。梟雄詐力。不一而

足其子義成。奸且有膽。畧自兼其箕裘而來。畧上總掠  
 下總。叨受領房總守。護以自稱。東南大藩。然而不受制  
 於連帥。不結交于隣國。加之役使。結城煉馬。殘黨大山  
 道節。大塚信乃。大阪毛野等。皆以大為氏。八箇強人。而  
 使此在近國。屢放火陷城。暴行竊盜。無不為。又於其中。  
 有稱大江某惡少年。嘗幻奪隣國。逆臣河鯉。孝嗣於法  
 場。以捨藏焉。出沒無量。何皇毛舉。今也鎌倉。兩管領家  
 連諸侯。合兵將行天誅。大兵臨城。日玉石其與碎。若等  
 房總洲民。俱欲去桀紂。就湯武。或謀而刺。義成或捕。犬  
 氏首來獻。諸軍門。則其賞豈唯千金富貴。利達必在是  
 舉。是以檄。其の漢文を和解して。國字を寫す。數通あり。王民の

文字を免る者不讀せしその所為を尋べ義成是を尋りて件の生拘技太郎を  
そが終面前に牽居させむ。みづから解論しめり。今戦國割居の世に方りく  
人の我も各間諜児をり。近國の虚実を撈り。封疆を守る用意とを  
然る間諜児とく我甚しく憎む。今這檄文を見る。火をりて水  
といふが如く其誣ると甚し。初我父の安房四郡を得り。逆賊定包を  
伐滅し。義兵の致を所を満呂安西が自滅を取り。奸詐不義の天誅  
の。然る信時の景連の賣られて竟自身を殺し。景連の亦八房の犬吠  
まて命を預りぬ。誰う是三亡滅の故をり。我父を罪とせ。困民通て罪  
とせざるを。定正一箇の臆断をり。是を罪と思ひ。何ぞその折征せざる。  
數十年麻止ぬ。今今一。是をいへる。遅くも。且我が上總下總を伐徒へ  
ある。其城主なる者暴暴戾を。民の棄られしを取れる。敢詐力を盡し。苦

戦て人の城邑を大奪ひよあり。皇居及將軍家調頁の敬礼を  
懈らむ。隣國の諸侯と親く交るといふれ。又隣國といふ。一は  
兵を構るとも。天子將軍是をり。我を罪ありと表ぬ。管領軍我を  
罪せ。開け私議ゆ。公論あり。別又犬山道節犬塚信乃が。定正  
主と較む。走らる。一旦五十子の城を接し。他がが。我の仕る。以前の  
ゆ。其先君と父祖の為。聊怨を復さ。然る。我が他が。課て火を  
放ち城を接し。抑亦誣言を。八犬氏の母。其未生以前。我  
家。宿因あり。我感。悟る。わ。他が。在。處。を。去。る。年。來。を  
歴。止。る。の。春。も。夏。も。至。り。て。稍。縁。熟。し。て。皆。召。集。て。竟。不。家。臣。不。あ。る。之。今。余  
犬士の母の生來感得。あり。て。仁義礼智孝悌忠信の八行を各丹田の  
藏ゆる。俊傑あり。その行狀一個とて。仁義八行の稱。さる。其の美を

知れる人もあらず。誣り強人といひつゝ、寔は沙汰の涯之況孝嗣と云ふ。我  
 いも是を見ぞ。他の靈狐の帮助もあらず。罪を免れ死刑を免れ。人の噂も  
 望の願ふ定正。王早く怨怒の妄想を祛け。善小與まる。徳をりくせ。自  
 自他の民相悦び。永く唇齒の好を結ん。憊も解。猶悟。其行を  
 飾り。其非と理と。敢勝負と決せ。防衛の備わ。前執  
 る身へ辨まる。由る。爾還。憲重。是等の美をも報。定正。王  
 諫め。定正。遂に感。下。思ひかへ。多。両家の幸。い。何  
 麻。美。を。と。せ。や。と。い。れ。て。技。太。郎。頭。を。拾。ひ。て。御。説。美。り。ひ。仰。の。條  
 條。胆。小。銘。り。て。憲。重。小。報。ひ。ひ。む。い。き。免。さ。せ。あ。り。と。願。へ。義。成。主。領。り。て。然  
 も。あ。り。ん。卒。然。と。崩。三。日。也。其。技。太。郎。小。撰。る。未。素。と。解。饒。り。て。淺。船。の  
 無。せ。返。一。遣。う。ね。の。地。小。留。む。へ。と。仁。慈。の。下。知。崩。三。日。の。応。を。あ。り

技太郎が宗を解んと。登時道節休む。松と。禁め。我。と。出。義。成  
 主を諫る。世。稀。る。御。慈。命。を。否。し。不。敬。の。罪。を。免。さ。せ。い。  
 盗。小。糧。を。齎。し。雙。言。小。刃。を。借。ま。り。の。聖。賢。の。せ。る。所。也。宋。襄。公。の。仁。也。  
 過。は。り。非。如。寬。仁。大。度。と。り。て。這。奴。と。饒。し。也。定。正。の。馬。將。之。又。憲。重。  
 慳。臣。之。俱。道。理。小。暗。け。れ。這。仁。命。を。受。容。れ。て。其。行。を。改。る。由。あ。る。べ。し。  
 是。重。一。の。經。文。小。り。て。思。量。ま。り。那。憲。重。親。子。の。如。し。君。の。惡。小。逢。者。其。罪  
 多。る。ふ。理。を。知。り。主。を。諫。め。ひ。り。や。且。檄。文。を。散。さ。敵。の。間。諜。兒。は。這。奴  
 一個。多。る。も。然。れ。我。安。房。の。國。民。等。理。義。小。明。る。稀。る。べ。し。檄。の。誣。言。小  
 惑。さ。れ。て。叛。く。心。の。馮。も。せ。則。是。自。家。の。害。之。早。く。這。奴。が。首。を。斬。せ。衆。小。示  
 去。め。御。後。悔。の。や。い。ん。と。憚。り。所。も。論。ま。り。と。毛。野。信。乃。莊。介。小。文。吾。現。八

ら。の。黙。然。と。して。望。る。の。も。又。辰。相。清。澄。等。萌。三。目。貝。六。郎。小。至。る。も。大。山。が。説。論。當。れ。り。と。あ。り。て。思。ひ。ぬ。る。の。く。君。の。意。衷。を。汲。難。く。皆。共。侶。の。黙。然。と。す。る。そ。の。中。小。義。成。王。の。件。の。諫。言。と。听。果。く。敢。怒。る。氣。色。を。徐。に。論。し。果。は。道。節。汝。が。諫。言。の。誰。も。徳。思。ふ。べし。我。も。亦。婦。人。の。仁。を。好。と。す。あ。ら。ね。も。今。思。ふ。よ。き。の。あ。ら。む。這。安。房。上。總。を。民。毎。の。老。館。及。我。年。來。の。所。を。徳。と。せ。む。這。檄。幾。百。枚。を。見。る。と。も。敢。叛。く。者。を。處。べし。又。安。房。上。總。を。民。毎。の。我。の。不。徳。と。して。年。來。怨。心。の。あ。ら。む。這。檄。を。見。む。と。も。必。や。我。を。棄。て。敵。小。従。の。者。を。多。く。其。叛。く。と。叛。ぎ。る。の。我。徳。と。不。徳。在。り。の。檄。文。を。懸。え。や。且。汝。の。言。行。心。の。人。の。為。に。誣。され。其。虚。を。憎。む。の。故。に。我。も。亦。其。虚。を。倣。ふ。不。狂。人。も。共。走。る。不。似。し。他。の。他。が。虚。を。以。て。我。の。我。仁。を。以。て。這。奴。を。殺。して。何。せ。ん。汝。の。忠。誠。の。我。も。知。ま。る。知。ら。ず。這。里。の。用。ひ。の。意。味。を。以。の。故。の。後。と。も。

思。ふ。の。あ。ら。む。必。懲。り。を。諫。め。と。慰。め。の。道。筋。然。と。畏。と。敬。服。し。御。教。諭。の。有。く。死。生。を。思。う。も。美。り。の。ひ。に。宣。小。臣。等。が。法。慮。る。僅。小。其。一。を。知。れ。る。の。も。及。ぶ。と。依。死。不。居。富。嶽。の。巔。と。見。る。が。如。し。就。て。猶。あ。る。死。の。怖。れ。に。が。ら。稟。上。人。方。僅。仰。出。され。軍。令。の。敵。と。刃。を。合。さ。る。折。生。物。を。り。大。功。と。も。首。と。捕。る。を。好。と。せ。む。と。あ。一。條。の。思。ひ。ぬ。る。の。益。兵。と。凶。器。の。敵。と。刃。を。交。る。時。言。室。も。用。捨。ま。ぐ。を。然。る。を。相。憐。む。と。戦。ふ。者。の。死。や。开。を。憐。め。と。教。え。る。言。憚。り。の。ひ。に。も。矛。と。盾。と。を。粥。鬲。の。似。たり。昔。日。楚。圍。の。矛。と。盾。と。を。賣。買。者。の。あり。け。り。其。矛。を。買。入。と。の。者。ある。時。に。我。這。矛。を。刺。せ。鐵。の。盾。と。も。必。く。徹。ま。と。い。け。り。又。其。盾。を。買。入。と。の。者。ある。と。は。我。這。盾。を。防。は。ば。矛。も。前。も。徹。ら。む。と。い。の。後。の。人。あり。是。を。詰。り。く。あ。ら。む。汝。が。矛。を。刺。さ。誰。何。と。傾。け。し。言。比。窮。り。く。賣。買。を。ま。る。ぬ。と。の。譬。言。喻。の。韓。非。子。の。出。る。と。瑯。耶。代。醉。



篇も載ては欲約莫言の品語ひを言看と一もは誰の知りたる  
る御軍令も庶一とせん欲そを左せれ右もあれ今番守隊の惣大将扇  
谷定正主の臣等が先君先父の冤家や今館の雙言敵のどどとて戦の  
時不蒞く備前面立つとあら射て殺まはるるを免るを饒一ありやと  
回ハ義成主領は汝が疑ひ开も亦故なり我嘗上古の聖王仁君の軍を  
憶ふ不取其敵を屠り人を殺まはるるを只逆を討ち異來を懲一く  
ゆる其民を救ふの然今我敵を待た防と上目として殺まを宗とせむ  
あをりて汝等七名を防禦使をあらし防せ為ありて戦いん克を功と  
されども首を捕ると好とせむ是仁人の心るをや介る不防禦とふ不又差  
大勇ハ大敵を防ふ必よく謀を以て故に戦むして敵と退る者  
其次は防は或は殺し或は走らる者又その次の防はも竟不防は

先を折勢ひの躬りて戦死して名を貽まの誰敵を憐くよく戦ふ者  
あらんや機不臨と変ふ心とて進退出沒疆りる乱戦奔馬の中や。豈  
只敵と生拘んとて戦ふ者あるや其敵を憐むるは戦ざる前不在り  
又戦克く後もあるべし昔唐山秦の蒙恬ハ趙の降卒四十萬を宥る  
報いず後竟不趙高誅せられ刃伏しゆの箴とるを免る然我軍  
今不敵の首を捕る者を罪せんとある言不者まといれもせめ我の他と伐  
ま欲せば他多く我を伐まも已てを免るると死の所もあつべし刺もあつべし殺  
まを功とせざりし則仁の心人の義を思ひ違へと解ま道節沈吟  
莞尔と笑々頭を抬け御教諭愈佳境入り滋感服仕る也今の御  
諛ハ只臣等が疑ひと解せぬを尚よの御諭微りせ疑思ふ者多るべし  
相あるて心と心をせれば義成主ハ辰相と清澄をたると汝も今の言成安

了也。道節が忠誠多。其方正直言の我々所あの人あはれ。今その言を取ぎ  
 いふも後必裨益あらん喜ぶべくと稱え。辰相清澄共侶の拜賀して君  
 君され。臣も亦臣。當家永昌疑ひる。其歎ひを直示さむ。毛野信乃莊  
 現八小文吾自餘の毎お至るまで孰も感服せざる。死俱千歳をぞ唱へ。恁  
 而東峰萌三乃二。上日とる。則朝時技太郎不被る。索を解免せ。技  
 太郎の恩を拜せ。外面退治せ。難兵等うち守りて。洲崎の港口只狗て。仍て  
 隨即快船ふらち棄せ。武藏の柴濱を送りける。余程朝時技太郎をその  
 宵悄悄地五十子の城かかち来る。主の大石憲重。安房中あり。事の顛末  
 義成主のいれ。那仁心の大なるぬを。毫も隠さ。告ぐ。憲重の夢も呆  
 らと半响許。ななく思ひ復せ。美言の信る。甘言の反て。毒あり。丹を只  
 敵の心を録。是義成が詭りの計。らん。敢又機念せ。且已遣。

たる間謀見の一旦敵の搦捕られて。饒されてか。る。主君の報ん。の。か。ゆ。  
 只技太郎が口を鉗め。自家の士卒おも。の。美。を。知。を。軍。敗。れ。後。の。日。小。定。正  
 是を。知。り。て。且。恥。且。悔。し。思。ふ。の。も。竟。其。甲。斐。を。り。け。り。あ。ち。是。後。の。話。不。題。  
 義成主の軍令既成り。く。あ。の。日。又。水。陸。の。隊。配。と。定。め。る。水。戦。の。惣。大。將。は。義  
 成主自任。洲崎の濱邊の本陣。在。り。軍。師。大。阪。毛。野。防。御。使。犬。山。道。節。  
 犬村大角を首。小。木。林。但。一。郎。高。宗。浦。安。牛。助。友。勝。等。相。從。ふ。這。隊。の。士。卒。  
 一。萬。六。千。之。内。中。犬。村。大。角。今。敵。地。在。り。あ。れ。ど。も。水。戦。小。與。る。死。し。り。あ。ま。ら。  
 愛。友。小。交。名。せ。れ。ら。又。下。總。の。行。德。へ。防。御。使。犬。川。莊。介。を。大。將。お。て。犬。田。小。文。  
 五。口。と。副。將。と。登。桐。山。八。郎。等。是。の。從。ふ。の。隊。の。士。卒。八。千。五。百。之。又。下。總。の。國。府。  
 臺。へ。里。見。御。曹。司。義。通。を。惣。大。將。お。て。東。六。郎。辰。相。後。見。等。杉。倉。武。者。助。  
 直。元。等。相。從。ふ。て。龜。城。を。と。定。め。る。其。城。外。小。敵。と。待。つ。大。將。は。防。御。使。犬。

塚信乃副將大飼現八並小田税力助逸友等是（此）小従ふ内外の士卒九千五百之の餘印東小六郎荒川太郎一郎木曾三助東峰崩云小湊目鱗船貝六郎遊軍也。俱小洲崎の陣在り又稻村の城也。義成の二男次丸を大將也。荒川兵庫助清澄後見也。他老黨若黨相従ふ麓城の士卒一千五百之の時満呂復五郎重時ハ刀瘡を癒へ愈へ則洲崎の陣小参りて孰の隊之とも屬られんを請ひ稟あり義成主臈て復五郎を召よせり。汝ハ大川莊介犬田小文吾小従ふ。行徳の敵小向ふべと定めり。隊配既小果々。の宵義成義通父子洲崎明神小参龍あり。祈請の筒牘一通ハ白羽の征箭二條を添へ神殿小藏めなる神主巫祝等管絃を奏せ舞樂の時小方て。社前小松の重枝より白鳩二隻忽然と蜚出り大洋の方戌亥を投て翔を見えけるも不思議な鳩ハ飛ぶ小早に物なれ和名とととととと東雅也

小鳥夜中この道鳥瑞あり必神所為るべと士卒各勇む馬思へ思へ之徳而遠詰朝國府臺と徳敵を待り諸將士卒ハ義通御曹司を首とて大塚信乃大飼現八東六郎杉倉武者助田税力助也前後二軍の兵を領り早天小稻村を進發せ又一軍ハ大川莊介犬田小文吾登桐山八満呂復五郎也其隊小従ふ士卒を領り同時小又稻村より行徳を投て出陣せ其光景ハ甚麼ぞ也但見る旌旗幡幟ハ曉風小翩翻り鎗眉尖刀ハ朝日小赫亦火ハ人の鎧の袖を連りて曉の星小明る天をうち仰せ馬ハ真紅の總を垂り鑢の音と共小嘶く征客校天の勢ハ妻子留別の涙と願せ其去向ハ山あり川あり水仙ハ日南小花と見野梅ハ冬至不顔郁る霜の柱小求食らぬ會りて氷の上小絨さる落葉也安房上總ハ春寒く冬暖地地方といへ折々是小寒の即ハ人馬の吻

息白く見え。早朝の耳研るる似る。頭盛の鏡も冷れ、弓矢維張  
 正。鑊砲各肩を其武其勇決然と、只この両軍のまゝ。洲崎の濱の本  
 陣の形勢も亦思ふべし。波濤在処より二百歩許退き、小阜の地方の夜屋  
 あり。中央の義成主の屯まる処を十二間八間を、左右の毛野道節も守候処  
 各數百人を容れ、その内外一萬五六千の士卒、幾ともなく張耳、幕の  
 陰に在り、浦風靡く、白旗と磯馴松の被れ、歌を水際、維だ、戦艦を舳  
 尖を並べ、數る不違、あま馬の熟て水と怕れ、人の勇を敵と遲、とを刃を  
 鞆より頭れ、弓の囊と用を隠、火銃の燃線、潮風の中、濕ら毛、旗々、火  
 前の準備の櫃より、さきま、してあり、壘々、戦米の積れて、せり、棟、甚、月、穩  
 小駝馬の轂系れて、運送の便り、を暇ある、雜兵を、鏃と磨石、沙、坐、航、工、ち  
 帆を繕ふ、身々と响く、吊腿の音、鼓々、と鳴る、二六の大鼓、抱、関、鼓、杵の、敬言、士

卒の打馳を、駈馬、雜居、飲酒の禁、大將と、へ、も、饒、さ、畫、の、貝、も、吹、く、時、成  
 報、夜、の、篋、再、を、焼、く、夜、行、と、叫、ぶ、往、く、者、の、名、告、り、還、る、者、の、名、只、是、齊  
 齊、敷、等、を、細、説、も、盡、さ、べ、く、も、あ、ま、の、什、が、一、わ、あ、り、既、中、て、十、月、の、果、て、十  
 二月五日、ふ、る、ぬ、の、日、大、大、角、が、量、義、武、藏、の、柴、濱、へ、お、り、あ、り、る、兩、個、の、伴、當、情  
 地、の、快、船、を、乘、走、り、毛、洲、崎、の、陣、か、る、者、隨、即、毛、野、の、對、面、を、請、ふ、大、角、が  
 齋、一、方、密、書、と、衣、領、の、裏、も、合、出、り、毛、渡、一、毛、且、來、意、を、告、り、毛、野、の  
 道、節、を、招、か、る、俱、其、書、を、用、見、て、然、と、大、さ、る、を、先、其、使、の、水、路、を、障、り  
 る、て、速、ら、し、毛、答、言、て、留、置、く、馳、て、本、陣、に、赴、き、則、義、成、王、の、件、の、密、書、を、見  
 せ、ま、り、計、議、果、て、又、の、大、師、と、大、角、が、那、地、を、計、り、首、尾、至、妙、小、い  
 へ、今、宵、堀、内、自、任、小、運、兵、百、五、十、名、を、從、せ、早、く、那、地、へ、遣、り、八、百、八、十、人、の  
 密、策、の、其、一、隊、を、足、る、べ、れ、ど、敵、の、衆、船、一、緒、に、在、る、燧、を、免、る、も、三

へい。あどりく。音音も四個の婦女子も。今宵遣一ひん。あ亦箇様  
箇様と言詳。お耳に禀せ。義成屋敷點頭。開も亦汝も任して。貞住  
。他が歸府せ。日本件の密議を示して。あるる。その計ひを  
いそげ。あべ毛野。則退り出。先堀内雜魚太郎貞住と浦安牛助友  
勝。事の秘密を説示。其後東峰。萌三。小湊。目。鱒船。貝六郎。等。情  
地。招はる。談を。和殿。の當職。原是。老館。の御使。龐田。へ戦の  
注進。を。宗。と。お死。者。れ。ども。然。を。る。の。闘。戦。不。遇。々。けれ。ば。本。意。を。ん。  
。我。館。の。詰。請。ま。り。ぬ。和。殿。の。廿。二。分。の。大。役。を。課。ま。へ。東。峰。鱒。船。の。兩  
生。の。今。宵。我。投。ま。方。へ。隊。兵。を。領。く。ぬ。ね。か。其。の。投。ま。方。の。任。々。又。其。計。ひ  
箇。様。々。々。又。小。湊。生。の。異。日。遣。ま。死。地。方。あり。その。計。ひ。箇。様。々。々。任。々。の。一  
。あ。と。も。言。詳。不。説。示。せ。二。個。の。壯。伎。怡。悦。不。堪。む。含。笑。も。共。侶。不。其。計。ひ。東

。あ。ま。從。ひ。け。當。下。毛。野。の。付。節。を。令。出。く。是。を。萌。三。と。貝。六。不。遇。與。毛。其。隊。不  
從。ま。兵。卒。を。授。け。隊。配。早。く。定。り。けれ。毛。野。の。這。五。個。の。壯。伎。等。を。退。く。せ。  
又。浦。安。牛。助。友。勝。を。招。は。る。相。伴。を。潜。び。稻。村。の。城。か。り。來。り。俱。堀。内。の  
宿。所。不。造。り。て。隨。即。千。代。丸。豊。俊。浦。安。友。勝。を。引。逢。し。今。宵。妙。真。軍。節  
。敵。地。へ。遣。ま。快。船。の。舵。工。不。做。ま。り。其。に。示。して。敵。の。寄。る。の。月。八。日。  
和。殿。の。當。日。不。箇。様。々。々。と。其。進。退。を。ゆ。ま。れ。豊。俊。少。々。悅。業。て。猶。潜。り。く  
。箇。圍。の。居。り。毛。野。の。則。退。り。音。音。妙。真。軍。節。を。悄。地。に。別。室。に。招。は  
集。て。且。友。勝。と。俱。伴。の。密。義。を。談。ま。程。堀。内。雜。魚。太。郎。貞。住。の。異。衆。不  
心。痛。の。病。發。り。ぬ。と。佯。り。唱。て。洲。崎。の。陣。を。辭。し。去。り。其。隊。の。士。卒。百。五。十。名。を  
從。令。稻。村。の。城。内。宿。所。か。り。來。り。毛。野。の。則。貞。住。と。這。箇。圍。に。招。は  
入。り。更。も。又。談。ま。り。御。向。那。一。義。の。崖。略。を。傳。へ。と。大。師。と。大。村。に。授。け

たる。計畧既たぬかりて敵のの月初つの八日か必き推お寄よ来きべしと告つあてけ侍は大  
 角の密書をあり是をよみて堀内生の其隊兵百五十名と俱も小こ漢は者の如ごと  
 く小打扮して甲冑を各々其船底に推お隠かくし五七箇の鯨舟を乗りて今宵  
 悄地に其投を方へ赴かる我の大村が密使を御導の為に留置せる則は他を  
 うち載りて其投を浦に漕せる大村が對面を易く候べし大角が那地を偽名  
 赤品百中、大師の偽號の風外道人。即是を那里に到りて後の進退を  
 必き大角が意を衷にあらしむ其の義をあらしめぬか。却又は音音の刀を自ら是と異と  
 今宵は豊俊が降参の密使と伴りて快船を乗りて五十子の城へ赴かく小  
 四個の婦人同船に乗りて敵の其使の女子を捉まり且も其死を疑ふべし其の故は音音が  
 自ら曳きと俱も先に去りて五十子の城へ赴かて箇様々といひ其折敵の士卒を  
 豊俊の書翰を見て必き是を疑ふ拒して亟に信をさし登時は妙に真に

刀自らと單に即ち浦安生の船を操りる別船を乗りて赴かり續して那地に  
 到りて父を尋ねる御高の事の倉卒に豊俊が降参の口書を見る其の故は  
 又も奴等のといふまゝと伴りて其書を敵の士卒に遞して使し婦人を引き  
 とも疑ふて信を容れん其の邊に那技太郎が相似する敵の間諜見猶ほ  
 在るべし我が又も箇様々の策を計す。這は密策其圖中に刀を自ら愈に  
 信を容れん其の義をあらしむ中に物怪の幸を得るべし又も意を敵に  
 千代丸と面善なる必き其眼を見る刀を自ら一両箇を開き儘に留置在せる水  
 戦におぼくもべし其餘の城へ召入れ人質をし七を做する其城に入る者は箇様  
 箇様に計りたまふ又も船に在る者は閉戦の時臨みて便宜を為す敵の艦を焼  
 くべし勿論に火戦の策を計す大角と堀内生の一隊を必き成しゆれば寄隊の  
 艦の多くを皆く一度に焼きられ中に漏るもあらず其の故は千代丸に這は一役を

課せし。悠謀りゆ。我又憶ふ。約莫這頭。成長る武士。由莊。谷。皆總  
 角を比。好そ。水。戯れ。船を操るといへ。浦安生。今宵の。舵工。是。穴。音。ん。ん  
 一人。但。其。先。船。の。舵。工。を。渡。其。音。音。の。刀。自。ハ。早。く。より。水。戯。を。ゆ。こ。こ。す  
 ぬ。舵。工。あ。る。と。も。必。渡。さん。加。旗。猶。幸。あり。大。師。が。這。黄。昏。も。那。雍。尾。龍。を  
 王。を。り。こ。こ。這。里。より。那。里。へ。赴。く。船。の。順。風。を。與。へ。と。大。角。が。書。状。不。在。り。開。き。堀。内  
 生。の。與。え。れ。ど。刀。自。等。も。究。竟。の。便。宜。之。然。る。六。艘。械。を。掃。き。せ。し。も。船。を。か。の。づ  
 ち。那。地。不。届。らん。の。是。も。あ。ろ。日。勿。ろ。係。べ。の。餘。の。事。の。曲。々。今。我。指。揮。不。違。あ  
 ら。せ。あ。ろ。ゆ。後。と。説。示。せ。六。員。住。友。勝。の。威。下。く。已。ま。む。妙。真。音。音。鬼。の。單。の。即  
 皆。共。侶。不。悦。美。之。水。路。の。准。備。を。做。去。程。不。毛。野。の。人。々。不。辭。一。別。れ。て。い。そ。然。と。陣  
 所。へ。還。り。け。り。今。程。不。音。音。鬼。の。這。頭。の。浦。世。を。不。誤。ら。ず。蚤。婦。の。像。不。打。扱。で  
 其。曠。氏。自。城。を。出。る。毛。野。が。教。一。浦。邊。不。見。く。見。不。果。し。て。水。際。不。維。然。と。係。一

艘の快船あり。隨即これより乗り。曳舟と俱。漕。出。ま。ふ。大。法。師。が。那。玉。の。て  
 ら。も。吹。ま。る。あ。あ。ん。折。々。順。風。之。け。席。帆。揚。て。ま。ま。る。小。日。の。暮。合。て。烏。夜。る。れ  
 と。船。穩。中。迷。ひ。せ。坐。し。て。其。曉。天。不。柴。濱。小。船。果。し。け。り。有。怪。り。一。程。不。妙。真  
 と。單。節。の。音。音。鬼。の。此。一。後。れ。て。浦。安。友。勝。と。相。伴。ま。る。二。個。各。形。貌。を。畫。し。て  
 其。投。ま。浦。曲。不。來。て。見。る。あ。あ。も。毛。野。が。准。備。去。け。り。一。艘。の。快。船。あり。且。其。邊。一  
 個。の。浦。人。漁。火。を。焼。き。居。り。火。光。は。友。勝。を。透。し。見。て。和。殿。の。濱。縣。馬。助。を。ま。ま。や  
 日。暮。す。奶。々。と。妹。子。と。を。ね。く。作。心。廢。那。里。へ。と。お。く。と。向。か。友。勝。あ。ろ。ゆ。然。り  
 と。よ。和。殿。も。豫。知。る。故。主。圖。書。殿。の。與。不。扇。谷。家。へ。降。参。を。請。ん。と。い。方。僅  
 我。故。朋。輩。其。甲。の。妻。と。女。兒。が。悄。地。不。這。頭。より。船。不。乘。り。と。五。十。子。を。投。す。自。ん  
 か。ど。鈍。や。惴。り。と。要。緊。の。口。至。書。を。執。忘。れ。り。他。等。を。追。蒐。す。并。と。遊。興。さ  
 ん。と。く。末。娘。見。和。殿。も。船。不。乘。り。と。い。を。其。人。等。あ。る。馬。助。知。る。也。里。見

殿の仁心。我故主を誅戮せむ。今も國圖の類る。今番の恩劇。不當  
管見の憐る隙を覘む。國見を破りて。扇谷へ降参せむ。欲りし。不義の  
多く。且危し。日稀る。便り。就る。我も亦。その。告ぐ。當國の世を。潛  
我。殘黨。不。御。力。を。勸。せ。これ。我。呆。心。を。己。ね。と。林。示  
友。勝。胡。意。冷。笑。ひ。忠。義。不。疎。殘。黨。既。同。意。主。を。竊  
出。ま。く。旗。を。賜。日。遠。く。その。折。後。悔。猶。論。ま。死。り。あ。れ。ど。去。向。を  
い。そ。バ。今。宵。ハ。饒。先。々。と。い。ひ。も。妙。真。軍。節。を。引。立。て。船。不。乗。人。と。水。際。の  
奇。り。と。件。の。漢。子。酷。く。奴。等。を。奪。ぬ。と。一。聲。叫。び。果。む。衝。と。身。を。起。し。携。の  
替。を。友。勝。と。争。身。を。反。し。撲。地。と。投。る。白。打。の。精。妙。件。の。漢。子。ハ。船。中。り。り。  
沙。を。散。し。て。浪。ぶ。時。頭。を。磯。石。不。撲。せ。し。滿。面。忽。地。血。不。冷。れ。て。仰。反。り。さ。り。  
息。絶。け。り。あ。の。時。一。個。の。樞。心。見。あり。姑。且。磯。松。の。林。陰。不。身。を。潛。り。事。の。光。景。と

覘む。これ。の。憶。む。も。ヤ。ヤ。と。聲。を。擧。て。禹。歩。不。出。と。あ。つ。船。を。友。勝。の。う。ち。向。び。  
適。の。濱。縣。主。と。や。ら。今。甲。乙。の。問。答。の。う。ち。精。を。和。殿。と。那。上。總。を。擧。  
本。の。敗。將。千。代。九。主。の。殘。黨。を。云。ほ。云。酒。家。の。大。石。石。見。守。憲。重。の。間。諜。見。大。  
岳。餅。九。郎。と。喚。る。者。之。和。殿。も。五。十。子。の。城。へ。推。参。せ。む。欲。り。あ。つ。唯。も。同。船。  
を。引。を。ま。へ。あ。の。只。和。殿。の。為。の。事。我。も。亦。這。掙。を。を。り。過。  
分の。賞。祿。を。千。ら。ん。委。曲。の。船。を。せ。く。卒。々。と。い。を。友。勝。憶。む。ち。笑。れ。て。開。の。  
料。ら。び。る。幸。之。要。る。奴。不。障。身。せ。れ。と。言。も。費。し。時。を。程。今。の。先。火。家。の。  
船。二。里。も。三。里。も。後。れ。れ。ん。案。内。を。憑。と。信。り。妙。真。と。軍。節。を。ア。セ。セ。  
他。の。我。母。と。女。弟。之。既。不。内。應。の。計。較。あ。る。女。流。と。地。在。在。後。日。の。安。危。  
心。許。る。故。の。ち。載。り。も。ち。義。も。憑。と。宣。示。と。い。ハ。餅。九。郎。點。頭。て。好。  
好。女。子。の。障。り。る。い。そ。べ。し。と。い。う。軍。節。が。を。掖。扶。け。て。徐。不。船。不。乘。を。友。

八代傳し屏風二二  
廿五





勝の妙真を駝ひて船に遣り居て其身も俱に乘る程餅九郎の體解て早  
 く漕ぐ快船に追風よれが箭の如く大洋遙か出まけり然に友勝を投らまそ  
 死せりと見えたる件の漢子の姑且して頭を拾けて龜の像く西下を見えり蛇の  
 似く五體を伸してむと身を起こして汀渚を潮水と掬ひて洗ふ鮮血の豫准  
 備の餉燕脂を洗ふ隨ふ瘻ひる。軀をも拭きて幾番顔面を拭ひて其  
 獨笑して洲崎を陣所へかゝり給ふ。亦毛野を謀る処の邊中扇谷の  
 間諜見徘徊して虚実を視る猶やんと思ふ心を友勝の慮々と其は誨え又棟八  
 と喚い做ま一個の雑兵の好ま様樂まら做ま者小件の謀計と仰り甘果と  
 敵の間諜見餅九郎を釣出して反々友勝を引汲引をせり畢竟空なる這  
 計暗合く。後の話説甚摩をそ開の下回解分を聴ねか。

南總里見八犬傳第九輯卷之三十四終

